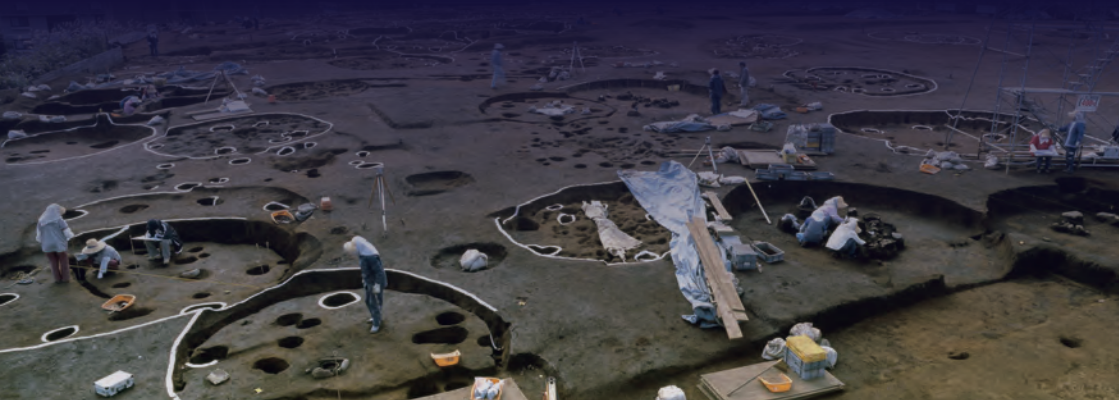
東京都立埋蔵文化財調査センター　令和３年度企画展示

# 現場のミカタ

## －発掘調査を読み解く－

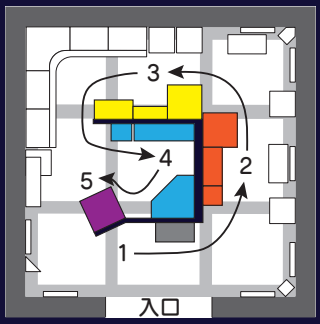
＜解説冊子＞

2021 3.22 月 ▶ 2022 3.9 水



## 展示の順路

1. 「現場」の仕事
2. 埋める
3. 置く
4. 大量
5. 謎




※この冊子は、東京都立埋蔵文化財調査センター令和3年度企画展示『現場のミカタ』の解説冊子として作成しました。

※遺跡名の「多摩ニュータウン」は、「TN」と省略して表記しています。

※この解説冊子で取り上げた遺物・写真資料は、東京都立埋蔵文化財調査センターに所蔵されています。

※この企画展示は、東京都教育委員会の協力により開催しています。

# 「現場のミカタ」の見方

昔の人びとは、土器や石器といったモノをどのように扱ったのでしょうか？

単純なようで奥の深いこのギモン。このギモンを解く大きな手がかりは、「現場」、すなわち「発掘調査現場」にあります。

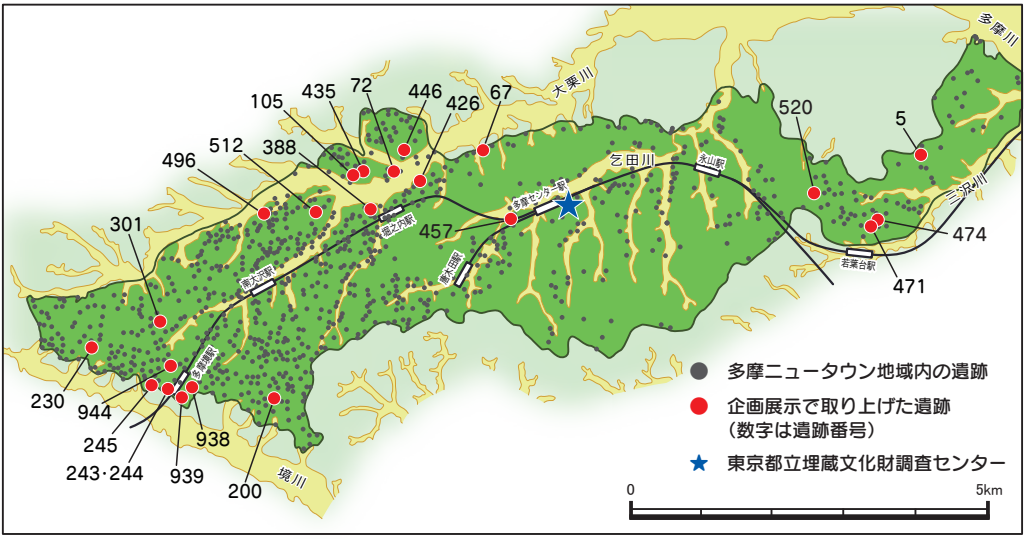
今回の企画展示では、多摩ニュータウン遺跡群の「現場」を舞台に、モノが遺跡から出土したときの様子に目を向けてみます。「埋める」・「置く」・「大量」・「謎」という４つの視点から、「現場」に残された人びとの営みを体感してみましょう。

TN No.72 遺跡の「現場」の様子

縄文時代の竪穴住居跡が 270 棟以上も見つかった TN No.72 遺跡（八王子市）

そんな巨大なムラを調査する「現場」の風景から、どんなことが読み取れるでしょうか？

## ＜取り上げた主な遺跡＞



# 「現場」の仕事

## Work in the "Archaeological Site"

土の中から掘り出される昔の家や道具――

発掘調査の「現場」では、モノが見つかった状況をさまざまな方法で記録しています。掘り込まれた穴の形、埋まった土の特徴など、「現場」でしか得られない情報をくわしく観察し、それらの情報を記録するのが「現場」の仕事です。

ひとたび土を掘り返すと、遺跡は二度と元の姿には戻りません。そのため、まるで現場検証のように、発掘調査現場では図面や写真によって記録をとりながら遺跡をトコトン調べているのです。

Old houses and tools excavated from the ground.

In the " site" of excavation, the context in which things are found is recorded in various ways. It is the job of the " site " to observe in detail the shape of the hole that was dug, the characteristics of the soil that was buried, and other information that can only be obtained in the " site " and to record this information.

Once the ground has been dug up, the archaeological site will not return to its original state. For this reason, the excavation site is thoroughly examined, documented by drawings and photographs, just like an inspection of a crime scene.

### ＜さまざまな「現場」の仕事＞

発掘調査の様子（1967 年撮影）
〔TN No.46 遺跡（多摩市）〕

平面図作成の様子（1993 年撮影）
〔TN No.72 遺跡（八王子市）〕

標高測量の様子（1981 年撮影）
〔TN No.146 遺跡（八王子市）〕

土層断面図作成の様子（1981 年撮影）
〔TN No.566 遺跡（八王子市）〕

写真撮影の様子（1994 年撮影）
〔TN No.200 遺跡（町田市）〕

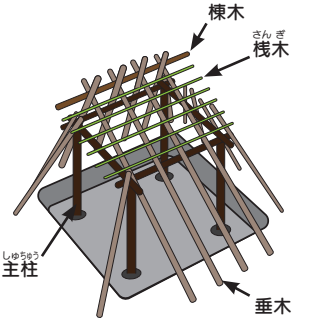
# はじめに：竪穴住居の屋根とは？

竪穴住居の屋根はどんな材質でどんな形をしていたの？

このギモンに答えることは実は難しいのです。掘り込まれた穴と違い、屋根は年月を重ねるうちに朽ちて消えてしまうからです。

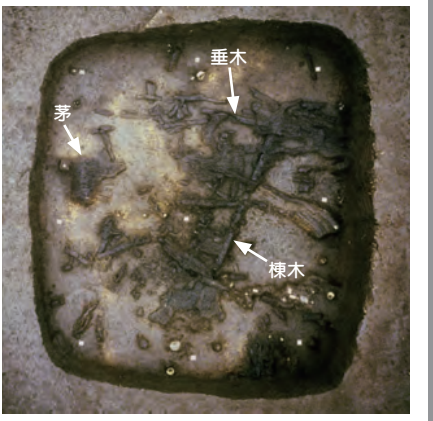
そんななか、有力な手がかりが「現場」で発見されました。TN No.200 遺跡（町田市）の古墳時代の竪穴住居跡から、火災にあった屋根の一部が黒焦げになって奇跡的に発見されたのです。

表面の土を慎重に取り去ると、棟木や垂木といった柱材に加え、屋根に葺かれた茅まで見つかりました。古墳時代の人びとが住んでいた竪穴住居の茅葺屋根。その貴重な姿が「現場」に残されていました。



屋根構造のイメージ図

TN No.200 遺跡　火災により焼け落ちた竪穴住居の屋根



焼け落ちた屋根を上から見た様子

屋根に葺かれた茅

垂木の上に葺かれた茅

発掘が終了した 41 号住居跡

41 号住居跡から出土した土師器
［TN No.200 遺跡（町田市）］
左：器台、中：甕、右：甕（脚台部）
古墳時代前期　約 1,600 年前

# 埋める Bury

遺跡の発掘調査では、「埋められた」モノが多く見つかります。人はなぜモノを「埋める」のでしょうか？ここでは、

1）建物など施設の部材として「埋める」

2）儀礼や葬儀などに関連して「埋める」

という２つのシチュエーションをご紹介します。

なぜ「埋められた」のか、「現場」の様子から考えてみましょう。

We can find a number of "buried" objects at an excavation site. So, first of all, Why do people "bury" things?

In this section, we present "buried" goods focusing on the below two situations.

1）"bury" things as a component for facilities or buildings.

2）"bury" things related to rituals or funerals.

We hope you also think about why they were "buried".

## 「部材」として埋める

現代においてもコンクリートなどを建物の基礎として埋めるように、昔の人びともいろいろなモノを部材として地面に埋めていました。

ここでは炉の構築材として縄文土器を埋めた例と、瓦窯を補強するために同じ窯で焼かれた瓦を壁に埋め込んだ例を紹介します。

縄文土器　深鉢
〔TN No.67 遺跡（八王子市）〕
縄文時代中期後半　約 4,500 年前

左の土器は、炉の囲いに用いるため、胴の中央部以下を打ち欠いた状態で埋められていました。このように土器を埋めて作られた炉を、「埋甕炉」と呼びます。

TN No.67　埋甕炉の検出状況

瓦窯焚口部の壁体に塗りこまれた瓦

右の瓦は、瓦窯の壁に塗り込まれた状態で出土しました。瓦には様々な種類がありますが、垂直な壁面に合わせて、形の適した平瓦が選ばれたようです。

平瓦（格子叩き）〔TN No.944 遺跡（町田市）〕
奈良時代　約 1,300 年前

# 「祈り」として埋める

人がモノを埋めるのは実用のためだけではありません。人の誕生や死、あるいは様々な信仰の機会に、祈りを込めていろいろなモノが埋められました。

現在より生きることが厳しかった時代。埋められたモノからは、人びとの幸福を求める強い思いも感じ取ることができます。

中世末から江戸時代にかけて、小さな石などに仏典の文字を書いて土に埋め、功徳を得ようとする風習がありました。埋められた石を礫石経と呼びます。

右の遺物は尾根上に並ぶ９基の塚のひとつから出土しました。なかには陶器片に文字が書かれたものもあります。

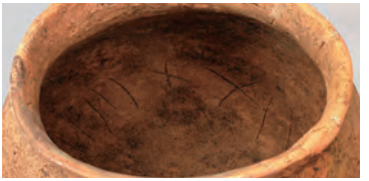
TN No.435 遺跡　塚の下に埋められた礫石経

礫石経
〔TN No.435 遺跡（八王子市）〕
江戸時代

左の坏と甕は、尾根筋の南斜面に掘り込みを設けて埋められていました。いずれも土師器で、甕に火葬骨を納め坏で蓋をしています。

甕の内部には、焼く前にヘラでＩ字やＸ字のような記号が刻まれています。蔵骨器として、何らかの呪術的な意味を込めて製作された可能性もあります。

土師器　坏・甕（蔵骨器）〔TN No.5 遺跡（稲城市）〕
平安時代　約 1,200 年前



甕の内部に刻まれた文様

TN No.5 遺跡　蔵骨器が検出された様子

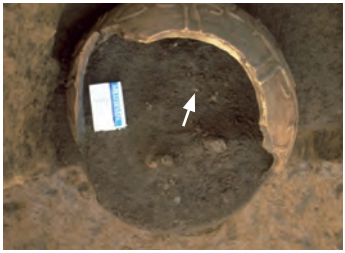
左下の縄文土器は、掘った穴に逆さまに埋め置かれていました。口縁を打ち欠いた上で上下二つに打ち割られていて、さらに底部にも穴が開けられています。

土器の内部には骨粉が残存していたことから、大きな深鉢を遺体をおさめる甕棺として使用したと考えられます。

縄文土器　深鉢
〔TN No.72 遺跡（八王子市）〕
縄文時代中期後半　約 4,500 年前

土坑内の土層と甕棺

甕棺内部の土層



甕棺の中から見つかった骨紛

ココにも注目 常設展示!

## 見えないところで ”いい仕事”

### TN No.452 遺跡　２号井戸跡木組井側

多摩ニュータウン遺跡群において、中・近世の井戸は素掘井戸がその主流ですが、TN No.452 遺跡（多摩市）で発見されたこの井戸は、井側（井戸側＝井戸枠）が木材によって「せいろ組型」に組まれた木組井戸で、本地域では極めて稀な検出例です。これは井戸内壁の崩落を防ぎ、水質・水量の維持などを目的として設置されたと考えられ、加工を施した板を一段一段組み上げながら外側を埋めていくその仕事には、丁寧さが感じられます。　※ピロティに展示しています。

コラム 考古学の沼

# 「転用」された道具たち

このコーナーでは、「『部材』として埋める」例として埋甕炉と壁に埋め込んだ瓦を紹介しましたが、右に上げたのもその一例。逆さに重ねた甕をカマドの煙出しとして使っています。いずれの場合も共通するのは、土器や瓦など、本来は他の目的で作られ、使われたものを、別の用途に「転用」していることです。

こうした転用が昔の出来事かというと、そうとも言えません。ごく最近でも、発泡スチロールの魚箱を花植えにしたり、公園の遊具に古タイヤを用いたりと、日常のありふれた光景のなかにたくさんの転用事例を見出すことができます。この転用、まだ使える手近な材料を使う、つまり「もったいない」精神のあらわれとも言えますが、使わなくなった火鉢を植木鉢に転用する例などは、モノ自体への持ち主の愛着による場合もあるようです。今回取り上げた例でも、埋甕炉に使われた立派な土器には、縄文人の特別な思いが込められていたのかもしれません。

モノが安くなり、ありとあらゆる工業製品があふれる今日。多様なニーズに応じて様々なモノが日々生み出されていますが、身近に適した専用品がない場合は、別のモノを転用して必要を満たすことも少なくありません。実は当センターの展示ホールにも転用品があるとかないとか…

時代や人びとのあり方を示す「転用」という行為。みなさんも身の回りで探してみてはいかがでしょうか？

TN No.938 遺跡　カマドの煙道部に重ねられた甕

土師器　甕〔TN No.938 遺跡（町田市）〕
平安時代　約 1,200 年前

体験コーナーの仕切りに使われているモノとは…

# 置く Place

あえて置かれたかのように出土するモノは、時代を問わず様々な遺跡から発見されます。ポツンとあらわれたり、ときに数多くまとまっていたり…

落とし物？ 忘れ物？ お祭りに使った？

まだ使えるものがそこに残された理由はなんだったのでしょうか。いくつかの事例から探ってみましょう。

Sometimes an object excavated from a site seems as if it had been intentionally placed there. Those things are found from different sites of different periods.

Just lost and found? Used for some rituals?

Why did they leave behind things which are still usable? Let's explore some examples.

## 置かれた時間の差

土師器　坏［TN No.512 遺跡（八王子市）］
平安時代　約 1,200 年前

左の 3 点の坏は、竪穴住居跡のカマドの中から見つかりました。埋まり方をみると、これら 3 点の坏はカマドを壊したあとすぐに置かれていたようです。

古来よりカマドには火を司る荒神が宿ると考えられ、その廃絶に際して何らかの儀礼が行われた民俗例もあります。本例もこのようなカマド祭祀の一つと考えられます。

TN No.512 遺跡 4 号住居跡カマド

左：須恵器　横瓶　　右：鉄斧
［TN No.512 遺跡（八王子市）］
平安時代　約 1,200 年前

右上の横瓶と鉄斧も、坏と同じ 4 号住居跡から出土しました。しかし、これら 2 点は住居跡が少し埋まったときに置かれており、坏とは状況が少し違います。

この住居があったムラは、見晴らしの良い尾根上に立地しています。山岳信仰にまつわる儀礼の場として、埋まりかけた住居跡が利用されたのかもしれません。

4 号住居跡　遺物が出土した様子

# 縄文土器の置きかた

右の２つの縄文土器は、ムラの片隅に入れ子の状態で横たわって発見されました。出土した様子から、その場に置いたものが倒れたように見てとれます。

２つの土器はいずれも同じ時期のものですが、形や模様がまるで違います。デコボコした土器をわざわざ重ねるのは大変そうですが、どんな理由があったのでしょうか？

外側

内側

縄文土器　深鉢
［TN No.520 遺跡（稲城市）］
縄文時代中期前半　約 5,000 年前

TN No.520 遺跡の竪穴住居跡群

入れ子土器が出土した様子

TN No.471 遺跡　25 号住居跡

下の縄文土器は、やや扁平な台石と並んで、竪穴住居跡の壁ぎわに横たえられていました。大きな石だけが壁ぎわに置かれた例はこのムラの他の住居跡からも確認されており、何らかの決まりごとがあった可能性があります。しかし石と一緒に土器が出土したのはこの住居跡だけ。何か特別な理由があったのでしょうか？

石と一緒に置かれた縄文土器

縄文土器　深鉢
［TN No. 471 遺跡（稲城市）］
縄文時代中期前半
約 5,000 年前

# 竪穴住居に置かれたモノ

右の坏は、古墳時代後期の竪穴住居跡の貯蔵穴周辺からまとまって出土しました。同じ場所では大小の甕や甑も見つかっており、当時の生活で使った土器の組み合わせを垣間見ることができます。重ねられた坏は、住居内での収納の様子を物語っているのかもしれません。

古墳時代後期は、住居の貯蔵穴周辺から土器が大量に出土する例がしばしば見られ、この時期特有の習慣と考えられています。本例もまた、意図的に置き去りにされたものと考えられます。

土師器　坏［TN No.939 遺跡（町田市）］
古墳時代後期　約 1,400 年前

TN No.939 遺跡　貯蔵穴周辺から出土した坏

右の土偶は、多摩ニュータウン地域にほど近い平尾 No.9 遺跡の縄文時代後期の住居跡で見つかりました。実はこの土偶、上半身と下半身が少し離れた位置で出土し、二つが接合して完全な姿になったのです。いずれも住居跡の床面にあったことから、住居にまつわるお祈りに使われたのかもしれません。あえて二つに割って置いたようにも見えます。

土偶は祭祀のための道具と考えられていますが、詳しいことはわかっていません。出土した様子を記録することで、「土偶ってなに？」というギモンを解き明かすヒントが得られるかもしれません。

土偶
［平尾 No.9 遺跡（稲城市）］
縄文時代後期前半
約 4,000 年前

平尾 No.9 遺跡　土偶の出土状態

コラム 考古学の沼

# 着装のイメージ

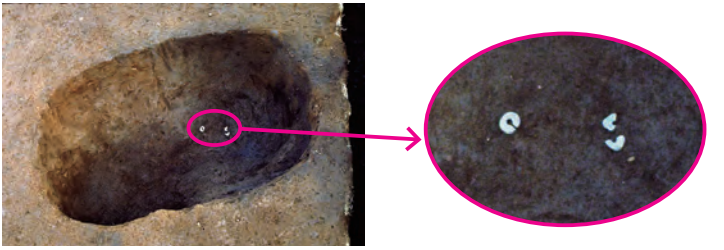
古墳時代末の横穴墓が10基発見されたTN No.912遺跡（町田市）。その中の1基、5号横穴墓では、床を高く造り出した「棺座」と呼ばれる場所から、金属製の耳飾り（耳環）2点と、ガラス玉、刀子が出土しました。ガラス玉は棺座の西側に集中し、耳環2点は左右離れてガラス玉の近くに1点、奥壁のそばに1点、また刀子は棺座中央の奥壁際から見つかりました。当時はこれらの装身具を身に着けた人が葬られていましたが、遺体や服などの有機物が分解された後に、装身具だけがその場に残ったのでしょう。こうした装身具の出土状況から、耳飾りやネックレスなどを着装した遺体が、棺座中央に頭を西にして安置されていた様子がイメージできます。

縄文時代にも同じような事例があります。TN No.753遺跡（多摩市）では、縄文時代前期の土坑から玦状耳飾り2点が見つかりました。出土の様子から、耳飾りをつけた縄文人が土坑に埋葬されたことがイメージできます。

モノが出土した様子を「現場」でよく観察すると、直接的な証拠は残っていなくても、当時の人びとの装いや行為を読み解くこともできます。こうした推測を繰り返し検証することで、よりリアルな過去がイメージできるのです。

TN No.192遺跡　横穴墓群

5号横穴墓棺座部の遺物分布と出土した耳環



TN No.753遺跡　玦状耳飾りの出土状況

# 大量 Quantity

「現場」では時折、特定の場所からおびただしい量の遺物が出土することがあります。

集落のそばの水路や斜面、使わなくなった竪穴住居、“やきもの”の窯などから集中して出土するモノ。一見捨てられたゴミにも見えますが、なかにはまだ使えそうな土器や石器も ...

ここでは、昔の人びとがその場にモノを大量に残した理由を考えてみましょう。

Occasionally, a tremendous amount of artifacts are unearthed from a specific location during an excavation.

Those objects are found at various places: irrigation canals, slopes near villages, abandoned pit dwellings, or ceramic kilns. At first glance, they look like discarded trash, but among some of them are still usable pottery and stone tools...

Let's think about the reasons why people in the past left so many things in those places.

## 水路から生活道具

江戸時代からおよそ 400 年にわたって営まれていた多摩の村落。水田のわきを流れる水路から、色とりどりの陶磁器が大量に出土しました。

江戸から昭和までの多種多様な生活道具が詰まったこの水路。どうやら長年にわたって村のゴミ捨て場になっていたようです。

TN No.243・244 遺跡　木杭が打たれた水路

陶磁器［TN No.243・244 遺跡（町田市）］
江戸時代～現代

陶磁器が出土した様子

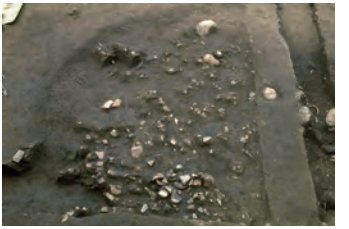
# 竪穴住居のその後…

TN No.245 遺跡　33 号住居跡遺物出土状況

竪穴住居は、その役目を終えると竪穴住居「跡」になります。この竪穴住居跡からも、しばしば大量の遺物が出土します。なかには、たくさんのカケラに混じって、投げ捨てられたかのように横たわる土器も…

先住者の記憶を伝える竪穴住居跡。その場所に縄文人はどんな思いで土器や石器を持ち込んでいたのでしょうか？

発掘が終了した 33 号住居跡



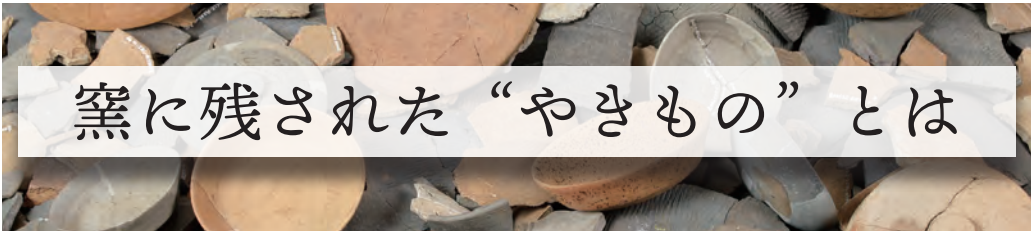
発掘当初から遺物が多く出土

時間差で持ち込まれた遺物の数々

床面で潰れた有孔鍔付土器

折れた磨製石斧も床面で出土

縄文土器　深鉢
［TN No.245 遺跡（町田市）］
縄文時代中期後半　約 4,500 年前

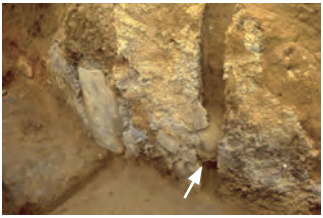


# 窯に残された“やきもの”とは

この窯には、焼き上がった須恵器が多く残されていました。完成した“やきもの”は人の手にわたり使用されるはずですが、一体なぜでしょうか？

出土した須恵器はほとんどが割れていますが、それらの破片の中には、窯の構築材として使われたものが多くあります。製品として流通しなかった須恵器にも、大切な役割があったようです。

窯の底面から出土した須恵器の破片



窯の壁面に塗りこまれた須恵器と瓦

須恵器
左：四耳付短頸壺
中・右：甕
［TN No.446 遺跡（八王子市）］
古墳時代後期～奈良時代
約 1,300 年前

TN No.446 遺跡　1・2 号須恵器窯

ココにも注目！ 常設展示！

## 職人気質は昔も今も変わらない？

### TN No.513 遺跡　10 号窯跡

武蔵国分寺の屋根瓦を焼く窯が作られた No.513 遺跡（稲城市）では、13 基の窯が確認されています。個々の窯の大きさからは、一回の焼成でかなりの量の瓦が焼かれたと想像できる一方で、灰原や前庭部、および窯内部に大量の瓦やその破片が残されていました。それら出土した瓦の一部は、窯本体の改修や補強にも使用されており、出荷する製品に対しての、職人気質とも思える品質管理の厳しさがうかがえます。

※瓦は体験コーナーに展示しています。

コラム 考古学の沼

# 過去の時間を解体する

右の写真はTN No.72遺跡で発掘された縄文時代中期（約5,000年前）の竪穴住居跡です。住居跡内には大量の土器や石器が残されており、当時の人びとが「一つの時期」に使った道具の組み合わせを知ることができます。

しかしこの「一つの時期」、「現場」の観察と記録によっていくつかの時間に分けることができます。竪穴住居を作るときに埋められた土器、住居跡が埋まりかけた時に持ち込まれた土器、というように、出土した状況からモノ同士に時間差を読み取ることができるのです。

日が昇（のぼ）ってから日が沈（しず）むまでの時間。現在と数え方は違っていても、過去にも同じ時間の流れがありました。埋まった土や遺物の違いを見分け、過去の時間をできる限り解体していくことこそ、現場の醍醐味（だいごみ）といえるでしょう。

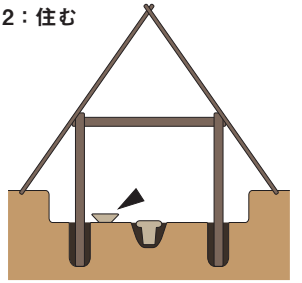
TN No.72遺跡　328号住居跡

竪穴住居跡からは大量のモノが…

**1：作る**

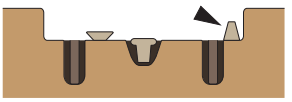
大地を掘って竪穴住居を作ります。このとき炉（いろり）に土器が埋められます。

**2：住む**



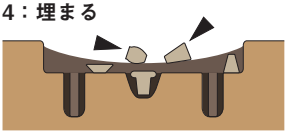
竪穴住居の中で人が暮（く）らしています。床（ゆか）面には日ごろ使う土器が置かれていたかもしれません。

**3：捨てる**



この竪穴住居を使わなくなります。引っ越（こ）しのときに置き去りにされた土器があったかもしれません。

**4：埋まる**



竪穴住居跡が埋まっていきます。くぼ地となった場所にたくさんの土器が持ち込まれています。

竪穴住居と出土した土器のタイムライン

1：炉に埋められた土器

2～3：床面に置かれた器台形土器

4: 大量に投棄（とうき）された土器

# 謎 Mystery

「現場」を観察するだけではわからないことも実はたくさんあります。石以外ほとんど見つからない旧石器時代の遺跡は、まさにその典型の一つです。それでは、石器の出土状況からどのように旧石器人の暮らしが復元できるのでしょうか？

現場で集めた情報を分析することでわかる事実。最後に、「現場」から離れたあとに明らかになる「現場のミカタ」をご紹介します。

In fact, there are many things that cannot be revealed simply by observing a excavation site. Paleolithic sites, where almost nothing but stones can be found, are a typical example. So can we reconstruct the life of Paleolithic people only from how stones are unearthed?

Actually, there are some facts that can be discovered by analyzing the information gathered in a site. Finally, we would like to show you examples of those facts which can be acquired only after we leave a excavation site.

## 旧石器遺跡の調査方法と記録

多摩ニュータウン地域では、旧石器時代の遺跡は、一般に赤土と呼ばれる関東ローム層の中から見つかります。長年の風化か、それとも当時の生活様式か、ローム層の中には住居跡などの遺構がほとんど残されていません。そのため旧石器遺跡の調査では、モノが出土した層や場所の情報を現場で詳しく記録し、それらの情報を持ち帰って分析することで、当時の人びとの動きを復元しているのです。

ステップ①　部分的に掘って遺跡を探す

ステップ②　遺跡の土層を捉える

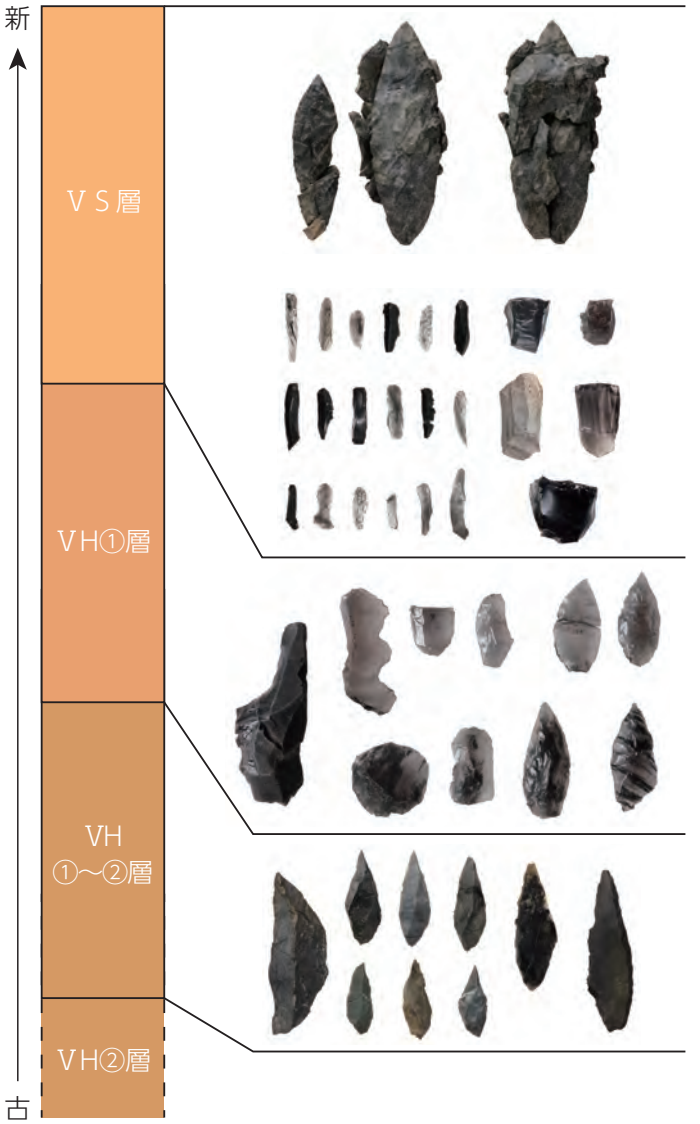
ステップ③　石器を掘り出す

ステップ④　石器の出土場所を記録する

# 旧石器と層位

「現場」で記録した情報をもとに石器を分析すると、いろいろな事実が浮かび上がってきます。

例えば下の図は、多摩ニュータウン遺跡群で出土した旧石器を出土した層ごとに並べたものです。これをみると、層ごとに石器の形や種類が少し違います。それぞれの層は年代の違いを示しており、旧石器時代の中でも時期によって異なった石器や石器づくりの技術があったことがわかります。




出土した層ごとにみた旧石器時代の石器

ＶＳ層：
（上）尖頭器
［TN No.426 遺跡（八王子市）］
（下左）細石刃・（下右）細石刃核
［TN No.301 遺跡（八王子市）］
ＶＨ①層：
（左から）削器・掻器・尖頭器
［TN No.496 遺跡（八王子市）］
ＶＨ①～②層：
ナイフ形石器
［TN No.512 遺跡（八王子市）］
後期旧石器時代

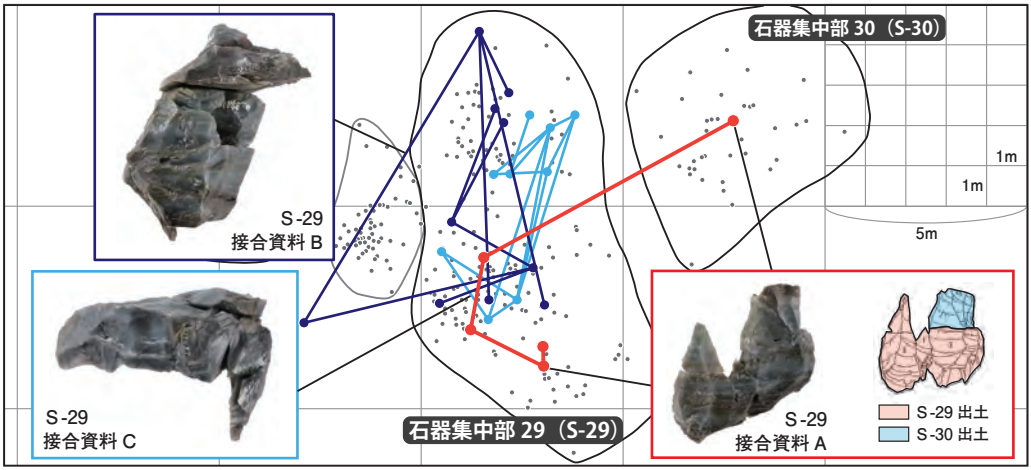
# 旧石器と接合

発掘された石器同士をくっつける作業を「接合」といいます。接合をすることで、石を割った順番などの石器の作り方に関わる情報が得られます。

また石器や剥片がまとまって出土する「石器集中部」の分析では、石器の出土位置と接合関係から、石器作りの場を特定したり、石材の運び込みや持ち去りといった当時の人びとの動きを知ることもできるのです。

※図の番号は石を打ち割った順番を示す。

接合資料［TN No.512 遺跡（八王子市）］
後期旧石器時代




接合資料［TN No.388 遺跡（八王子市）］
後期旧石器時代

ココにも注目 常設展示!

## 鳥は大空へ飛び去ったか？

### TN No.920 遺跡　称名寺式土器（鳥型把手土器）

縄文時代中期末葉から後期初頭にかけて、鳥を象った把手をもつ土器が多くみられるようになります。特にTN No.920 遺跡（町田市）で出土したこの土器は、見晴らしの良い尾根の頂部にポツンと単独で発見されました。何らかの祭祀の際に据えられ、特別な想いが込められたものかと思われますが、なぜその場所なのか、その想いとは何か、なぜ鳥なのか。 いつの世も人の心は謎です。　※縄文時代後期のコーナーで展示しています。

コラム 考古学の沼

# 「現場のミカタ」
# ↳「歴史のミカタ」

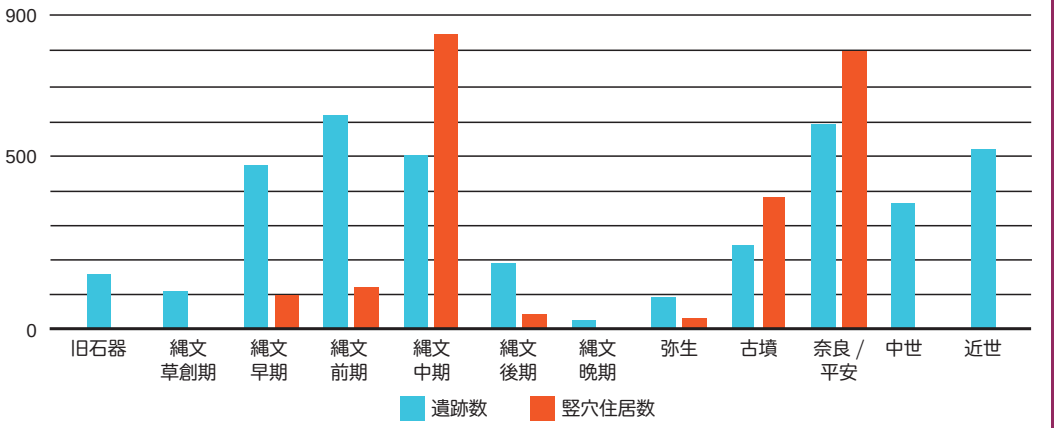
発掘調査によって、多摩ニュータウン地域に先人たちの足跡が数多く残されていたことが明らかになりました。それぞれの「現場」で得られた情報は報告書にまとめられ、今日の展示や研究に生かされています。それでは、「現場の謎」が解き明かされた先にはどのような光景が広がっているのでしょうか？

下の図は、多摩ニュータウン遺跡群で見つかった遺跡と竪穴住居跡の数を時期別にグラフにしたものです。これを見ると、遺跡数も竪穴住居跡数も右肩上がりに増えているわけではないことがわかります。とりわけ縄文時代から弥生時代にかけての変化に注目すると、縄文中期には800棟以上の竪穴住居がつくられた多摩ニュータウン地域ですが、後期になるとその数がガクンと減ってしまいます。さらに晩期から弥生時代になると、左の写真のようなわずかな例を除いて、生活の痕跡すらほとんど見つからなくなります。その当時、丘陵に何が起こっていたのでしょうか？「現場の謎」が解き明かされた先に、大いなる「歴史の謎」が見えてきました。

一つ一つの「現場のミカタ」が積み重なり、「歴史のミカタ」はより深まっていきます。そうした営みを支えるため、今日も「現場」では観察と記録が行われています。

粘土採掘坑に残された縄文晩期の土器
〔TN No.947 遺跡（町田市）〕

尾根上にポツンと見つかった弥生土器
〔TN No.421 遺跡（八王子市）〕



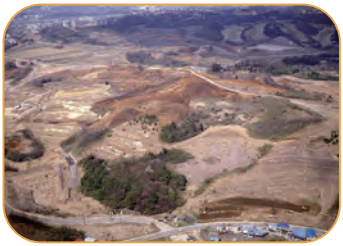

時期ごとにみた多摩ニュータウン地域の遺跡数と竪穴住居数

# 「あの遺跡」を歩いてみよう

## 稲城市　若葉台公園

京王相模原線・若葉台駅から北に進むと突きあたるのが若葉台公園。この一帯では、TN No.9・471・520 遺跡といった縄文時代中期の集落遺跡が多く見つかっています。そのうちの一つ、No.471 遺跡では、中期前半（約 5,000 年前）の竪穴住居跡が 50 棟近く発見されています。そしてこの No.471 遺跡、なんといっても「多摩ニュータウンのビーナス」と呼ばれるあの土偶が出土した遺跡なのです。

＜所在地＞
東京都稲城市若葉台 1-19-1
＜アクセス＞
・京王相模原線「若葉台駅」から徒歩 10 分
・市内循環バス（i バス）「若葉台公園」下車


TN No.471 遺跡　調査当時の様子

縄文中期の竪穴住居跡群

若葉台公園の花の段々広場

## 多摩市　鶴牧西公園

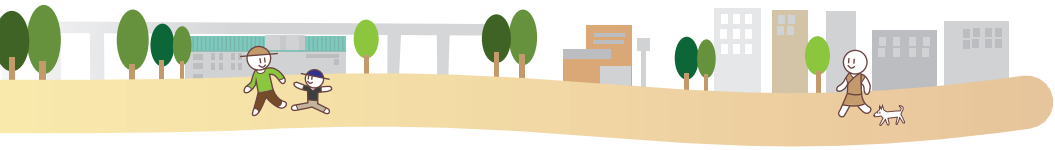
小田急多摩線・唐木田駅から歩いて 5 分、乞田川が流れる谷筋から高台にかけて広がるのが鶴牧西公園。そして公園内の「果樹の谷」あたりにあったのが TN No.753 遺跡です。この遺跡では、縄文時代前期後半（約 6,000 年前）のお墓が見つかりました。お墓の中には、副葬されたと考えられる土器や、当時の人が身に着けていた玦状耳飾りなどが見つかっています。

＜所在地＞
東京都多摩市鶴牧 2-18
＜アクセス＞
・小田急多摩線「唐木田駅」から徒歩 5 分

TN No.753 遺跡　調査当時の様子

土器を副葬したお墓

鶴牧西公園の散策路



## 八王子市　富士見台公園

大栗川と太田川に挟まれた高台にあるのが富士見台公園です。この一帯では、TN No.107・108・109・287・288・289・405 と多くの遺跡が見つかりました。なかでも No.107 遺跡では、縄文時代中期後半（約 4,500 年前）のお墓が環になって並ぶ「環状墓群」が発見されています。また公園の一角では、No.287 遺跡で発掘された平安時代の竪穴住居跡のレプリカを見ることができます。

＜所在地＞
東京都八王子市下柚木 905-3
＜アクセス＞
・京王相模原線「南大沢駅」より京王バス「京王堀之内駅（首都大学南大沢北経由）」行で「富士見橋」下車

TN No.107 遺跡　調査当時の様子

縄文中期の環状墓群

富士見台公園の竪穴住居跡レプリカ

## 町田市　小山内裏公園

京王相模原線・多摩境駅の北方、多摩ニュータウン通りを挟んで東西に広がるのが小山内裏公園です。園内では丘陵地形を歩きながら様々な植物を観察することができます。公園の北東部には縄文時代の住居跡や落とし穴が見つかった TN No.279 遺跡、南東部には瓦尾根窯址群があります。瓦尾根窯址群は、平安時代に相模国分寺へ供給する瓦を焼いた場所と考えられています。

＜所在地＞
東京都町田市小山ヶ丘 4-4
＜アクセス＞
・京王相模原線「多摩境駅」から徒歩 10 分
・「南大沢駅」から京王バス南大沢五丁目循環「南大沢学園前」下車徒歩 1 分

TN No.279 遺跡　調査当時の様子

TN No.279 遺跡の発掘調査の様子

小山内裏公園の入り口

令和 3 年度企画展示『現場のミカタ』 解説冊子
令和 3 年 3 月 31 日発行
編集・発行　公益財団法人東京都スポーツ文化事業団　東京都埋蔵文化財センター
〒 206-0033　東京都多摩市落合 1-14-2　電話 042-373-5296